

あかりたい パワースポット

◀ 1 ▶

願を掛けるといえば
初詣に代表される神社
仏閣がおなじみ。これ
に加え近年は、何やら
神秘的な雰囲気が漂う
場所「パワースポット」
が人気を集めている。
だが、どんな場所にパ
ワーを感じるかは人そ
れぞれ。歴史があれば、
自然や美術品もある。
そんな中越地区の「パ
ワーなスポット」を紹
介する。

「ウォー」「トンドン
ドン」。手作りの縄文服
姿で雄たけびを上げ、国
宝火焰型土器に「祈り」
をささげるのは、十日町
市中条地区のNPO法人
笹山縄文の里のメンバ
ー。笹山遺跡近くに住む
県十日町地域振興局農業
振興部副部長の野沢恒雄
さん55。縄文名・ツネ
ルベは笹山と縄文に魅
せられた1人だ。
毎年6月、遺跡周辺で
開く笹山じょうもん市に

国宝・火焰型土器

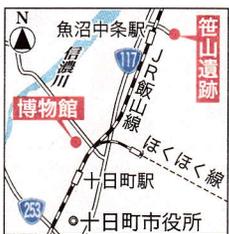


時空超え広がる渦模様

十日町

は、扮装した古代人が大勢現れ、4500年前にタイムスリップする。今回は市博物館の許可を得て国宝前で撮影した。「それでは正装で」と縄文人仲間を呼び、成り切った。

展示スペースの中央に



は、通称「縄文雪炎」と呼ばれるナンバーワン土器。笹山遺跡の象徴だ。「一緒に写真を撮れるなんて光栄」と感慨もひとしおの様子。

で絶賛されている。炎を体現するといわれているその形。野沢さんは渦巻きに引かれるという。「渦巻きは宇宙の根源的なエネルギーを表している」と聞いたことがありません。アイヌや古代ヨーロッパのケルトにも、似た模様があるんです」水や火、動植物など自然のつくり出すさまざまな渦巻きに、古代人は時と場所を超えて、共通の

感覚を持ったのかもしれない。

「1万年の平和と共生を創った縄文の精神は、これからの新しい時代の象徴です。渦巻きのように大きなエネルギーが広がり、人と人、人と大地がつながる。世界の至宝・火焰型土器を生み出した笹山が、これから世界の聖地になっていくのではないのでしょうか」

写真Ⅱ 火焰型土器を前に、新調した太鼓をたたく野沢恒雄さん(右奥)ら笹山縄文の里のメンバー(十日町市西本町1)

Q 火焰型土器 十日町市中条の笹山遺跡出土。土器や石器など928点が県内唯一の国宝に指定されている。縄文の国宝は他に全国でも3点だけ。遺跡の出土品は同市西本

町1の博物館に展示されている。博物館は十日町駅から徒歩約10分。入館料300円、中学生以下無料。午前9時～午後5時。月曜と祝日の翌日が休館。025(757)5531。